

## マルチスペック形熱電温度トランスデューサ

富士Sシリーズマルチスペック形熱電温度トランスデューサは、熱電対の熱起電力を基準接点補償を行ない直流の電圧・電流信号に変換するとともに入・出力絶縁を行ないます。

### 特長

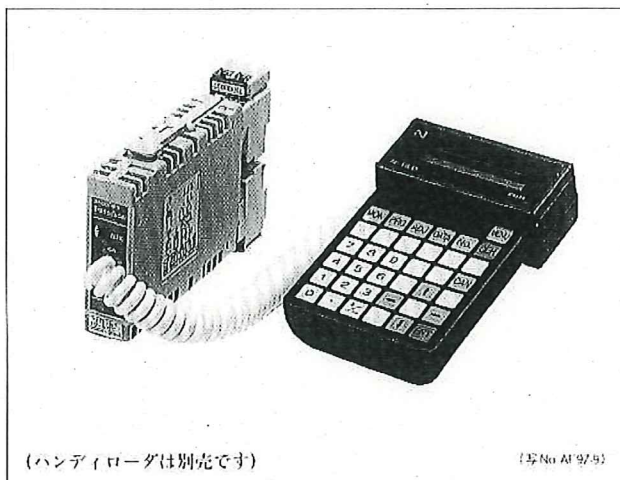
- 専用ハンディローダ(SRD形)により、入力熱電対の種類および測定温度範囲、出力ゼロ、スパン調整、バーンアウトの変更が可能です。
- 補助電源はAC85~264V, DC24V, DC110Vを選定でき、入・出力回路と絶縁しています。
- 基準接点補償・リニアライザ・バーンアウト機能(上限または下限)付です。

### 用途

- 電気炉・ガス炉・重油炉などの温度入力用

### 仕様

形式	SMT				
絶縁方式	フォトカプラ絶縁				
基準精度	±0.2%, ±0.4% (低レンジ用) 基準接点補償誤差を除く				
温度特性	±0.02%/℃, ±0.04%/℃ (低レンジ用) 基準接点補償温度誤差を除く				
応答時間	1s以下 (0~90%)				
基準接点補償精度	±1℃以内 (at23℃) 温度特性±0.03℃/℃				
バーンアウト時間	10秒以内				
許容外部抵抗	30Ω以内				
絶縁抵抗	100MΩ以上 (DC500V)				
耐電圧	入力-出力	AC2000V (1分間)			
	入力-電源	AC2000V (1分間)			
	出力-電源	AC2000V (1分間)			
周囲温度・湿度	-10℃~+50℃, 90%RH以下(結露しないこと)				
補助電源	AC	85~264V, 50/60Hz, 約5VA			
	DC	24V±10% 約120mA DC110V±10% 約50mA			
ゼロ調整範囲	約-5~+5%				
スパン調整範囲	約90~110%				
入力熱電対	区分	入力	レンジ	最小スパン	
		J	-100~1000℃	100℃	
		K	-100~1200℃	100℃	
		E	0~700℃	100℃	
		T	-150~400℃	100℃	
		B	0~1820℃	900℃	
		R	0~1760℃	500℃	
		S	0~1760℃	500℃	
入力インピーダンス	1MΩ以上				
出力信号 (負荷抵抗)	電圧(DC)	0~10mV	0~100mV	0~1V	0~5V
		(10kΩ以上)	(100kΩ以上)	(200Ω以上)	(1kΩ以上)
	電流(DC)	0~10V	1~5V		
		(2kΩ以上)	(1kΩ以上)		
設定可変仕様 (ローダにより キーイン設定)	入力レンジ	センサ仕様および、センサの測定温度範囲内での最小値と最大値の設定			
	出力ゼロ、 スパン調整	ゼロ側：約±5%, スパン側：約±10%			
	バーンアウト	上方または下方設定 (初期は上方)			
	質量	約180g			



### 形式(商品コード)説明

(WT1MT-□□□□2)

SMT-□□□□2

※ 入力熱電対  
J  
K  
E  
T  
B  
R

設計順位

補助電源	0	AC85~264V, 50/60Hz
	3	DC24V±10%
	4	DC110V±10%

出力信号

A	DC1-5V
B	DC0-5V
C	DC0-10V
D	DC0-1V
E	DC0-10mV
F	DC0-100mV
H	DC4-20mA
J	DC0-1mA
K	DC0-5mA
L	DC0-10mA
M	DC0-16mA
P	DC0-20mA
R	DC1-5mA
T	DC2-10mA
Z	特殊

※ 測定温度範囲		J	K	E	T	B	R	S
08	0~100℃	●	●	●	●			
09	0~150℃	●	●	●	●			
10	0~200℃	○	●	○	●			
11	0~250℃	○	○	○	○			
12	0~300℃	○	○	○	○			
13	0~350℃	○	○	○	○			
14	0~400℃	○	○	○				
15	0~500℃	○	○	○				
16	0~600℃	○	○	○				
17	0~800℃		○					
18	0~1000℃		○					
19	0~1200℃		○			○	○	○
20	0~1400℃					○	○	○
21	0~1800℃					○	○	○
ZZ	特殊	○	○	○	○	○	○	○

※入力熱電対および測定温度範囲はローダで変更可能ですが、ご注文の際は初期設定値をご指定ください。

(注1) ●印は低レンジ用。

(注2) ○印の温度レンジが初期設定範囲。

(R, Sは400℃, Bは800℃以上の部分が精度保証範囲)

(注3) 補償導線は熱電対とトランスデューサ端子の温度差を補償するものです。熱電体の種類に合った補償導線(色により区分されている)をご使用ください。

(注4) 測温抵抗ブロックRJCと本体は必ず工場出荷時と同一の組合せでご使用ください。

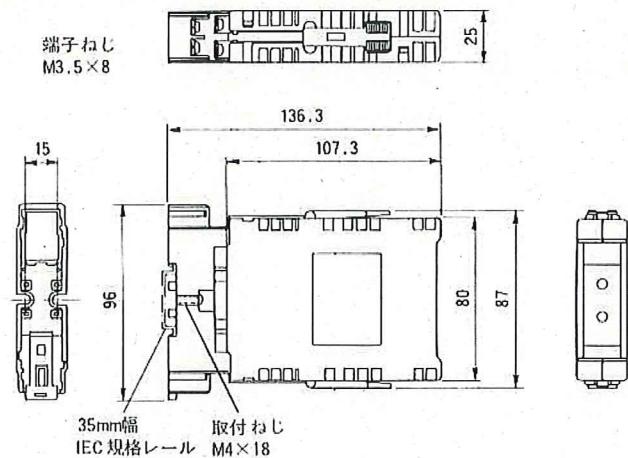
(注5) 測定温度範囲入力が10mV幅スパン未満の場合は、低レンジとなります。

# L, Sシリーズ 富士トランスデューサ

## 外形寸法図

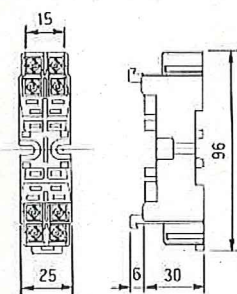
### L, Sシリーズ

- ソケット取付, IECレール取付

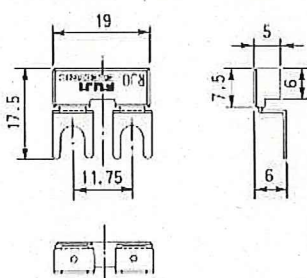


### Sシリーズ部品

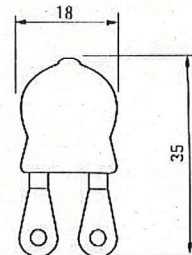
- ソケット (SK08)



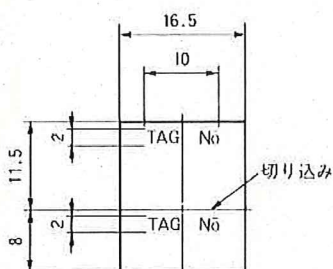
- 測温抵抗ブロック (RJC)



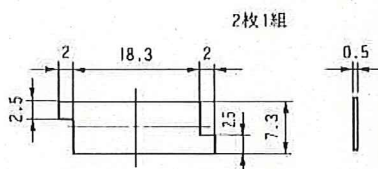
- ダイオードブロック (DID)



- タグシール (TAG)

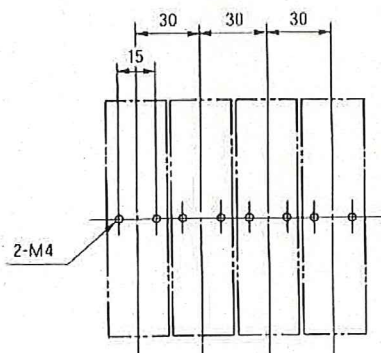


- 端子カバー (COV)



## 取付寸法

### Sシリーズ



(注意) トランスデューサの寿命は、内部回路に使用している電解コンデンサの寿命に左右されます。  
電解コンデンサの寿命は、周囲温度によって大きく変わりますので通気性を保つために各トランスデューサ間は最低でも1mm以上空けていただくようにお願いします。



# 富士トランスデューサ L, Sシリーズ

## 取付方法

### L, Sシリーズ

#### ソケット取付

図1の様に本体ソケットをパネルまたは壁に直接取付けます。取付寸法は、取付寸法図をご参照ください。

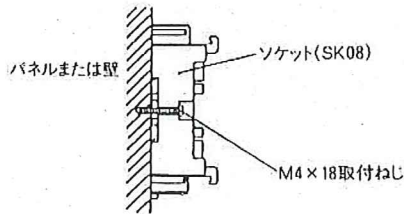


図1

#### IECレール取付

ソケットを取付ける場合、図2の様にソケット底部にあるIECレール用溝の上部にレールをはめ込み、下部のスライダにて固定します。本体の取付けは、図3の様にまっすぐに差し込みます。上下のフックが完全に噛み合うまで押し込んでください。

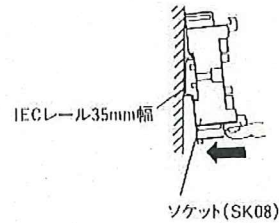


図2

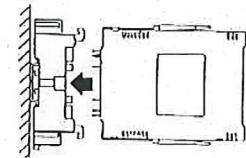


図3

#### 取はずし方法

ソケットをはずす場合は図4の様にスライダの角穴に(-)ドライバーを差し込み矢印の方向に引きながらソケット下部を手前に引いてください。

(注意) 本体を取りはずす場合は、図5の様に本体上下のフックを同時に広げたまま、まっすぐ手前に引き抜いてください。フックを十分に広げないまま引き抜こうとすると、ソケットを破損する事がありますのでご注意ください。

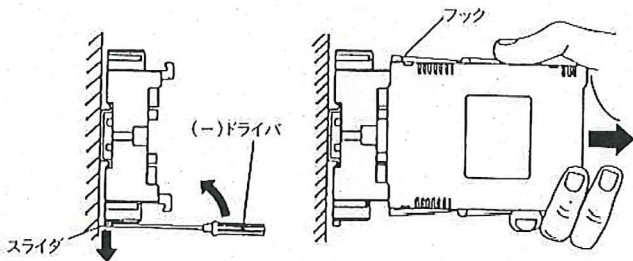


図4

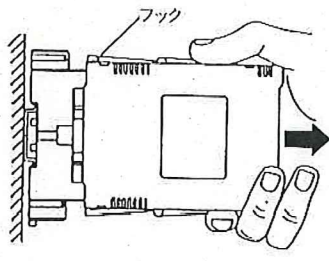
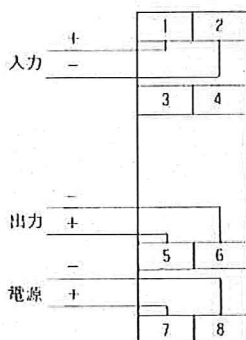


図5

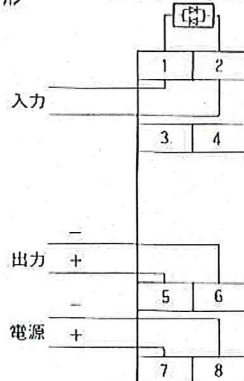
## 外部接続図

### LDC形



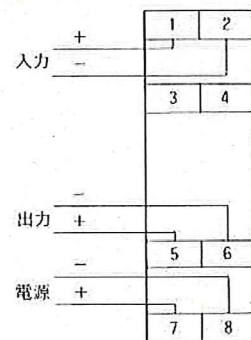
### SAC, LAC形

#### ダイオードブロック



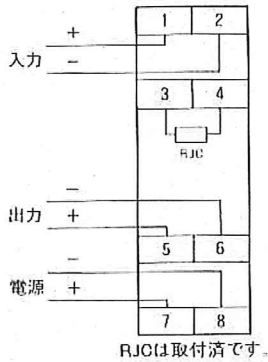
ダイオードブロックはSAC, LACの電流入力のみを取付済です。

### SDC, SRV, STG形 SMD, SML, SMR形

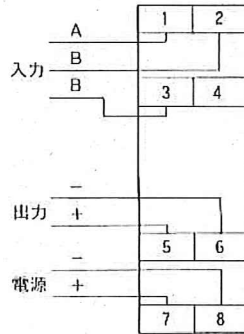


# L, Sシリーズ 富士トランスデューサ

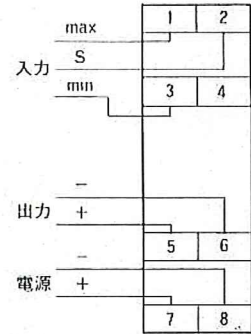
STC, SMT形



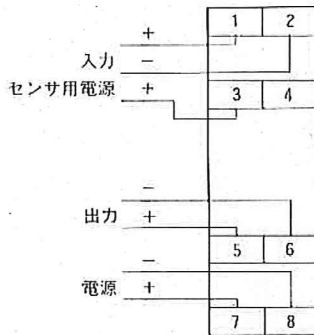
SMP形



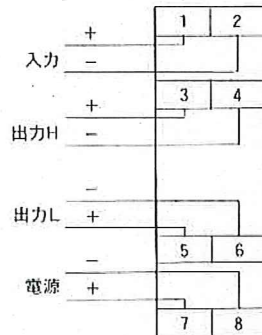
SPM形



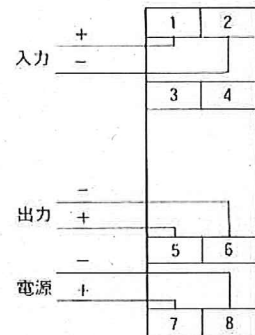
SSP形



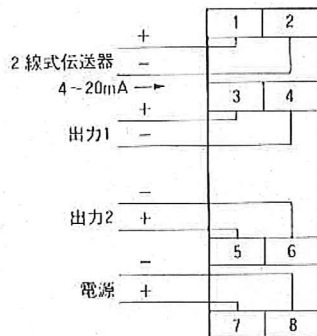
SAS形



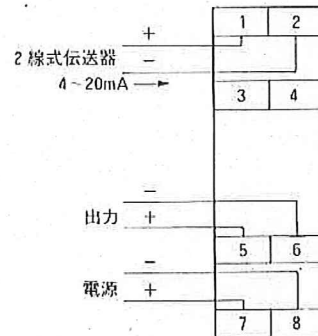
SHS, SDP, SLM形



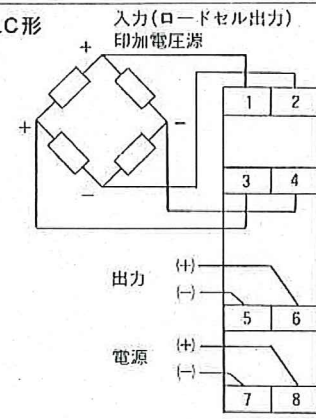
SDB形



SDY形

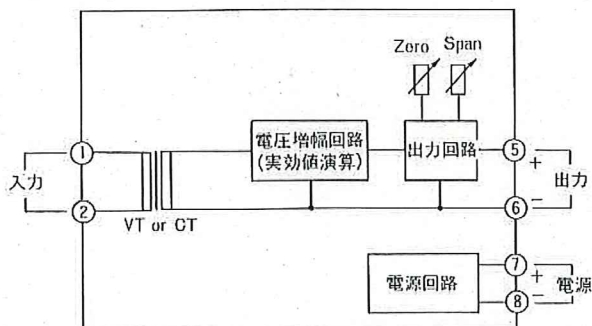


SLC形

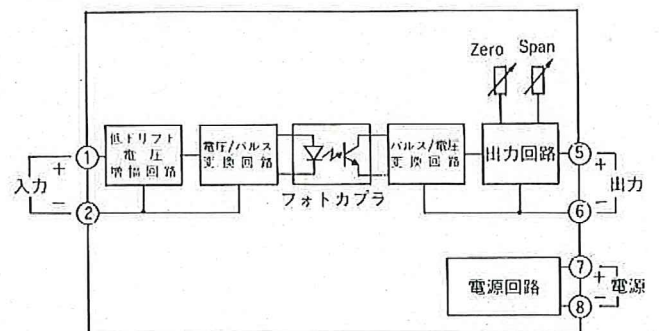


## ブロック図

SAC, LAC形

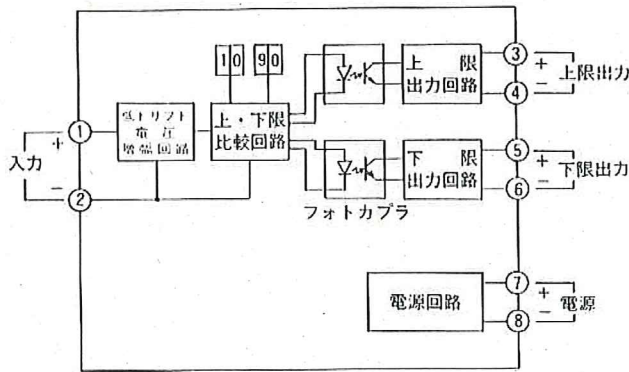


SDC, LDC, SRV, SHS形

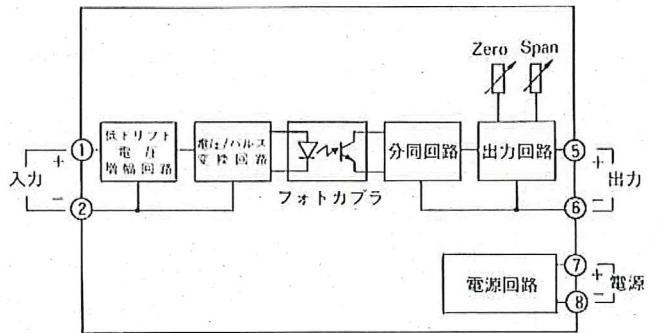


# L, Sシリーズ 富士トランスデューサ

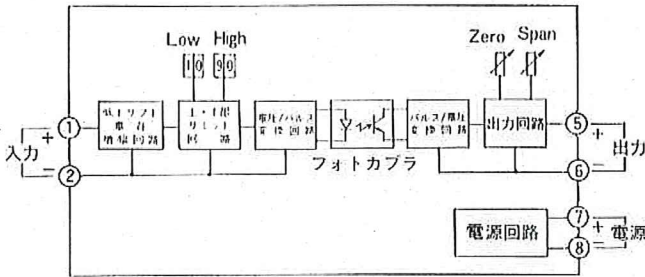
SAS形



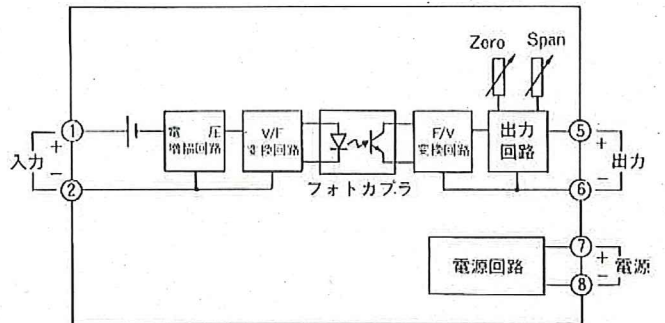
SDP形



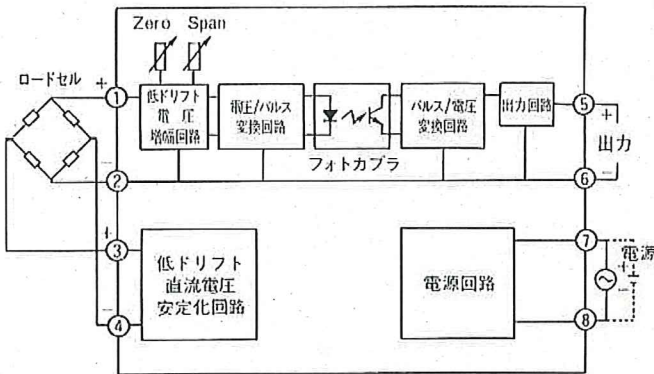
SLM形



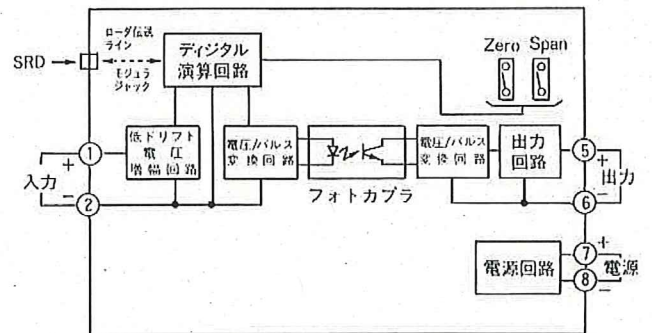
SDY形



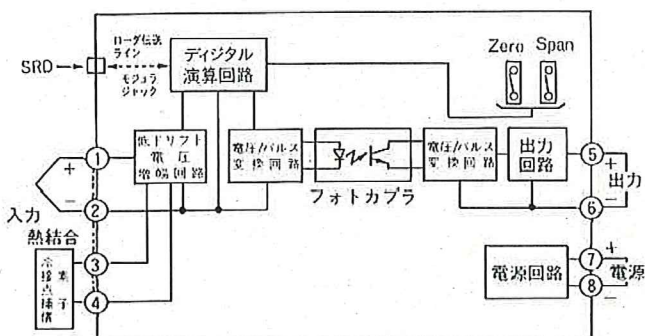
SLC形



SMD, SML, SMR形



SMT形



SMP形

